

I 総 説

—— 釧路市消防の主要施策 ——

総 説

—— 釧路市消防の主要施策 ——

国内では、毎年のように地震、台風、集中豪雨などの災害に見舞われており、特に平成23年3月1日に発生した「東日本大震災」の経験と教訓は忘れられないものとなりました。

そのような中で、昨年は自然災害が全国各地で相次ぎ、2月には関東甲信地方を中心とする大雪、8月には広島市における記録的な豪雨による土砂災害、9月には御嶽山噴火による火山災害、さらに11月には長野県北部を震源とする地震が発生し、改めて災害現場の恐ろしさを深く認識し、災害現場での指揮体制の確立と安全確認の徹底を再確認したところです。

当市においては、地震多発地帯であることから、釧路市防災総合訓練、防災ワンデー、消防・防災フェア等を毎年開催し、釧路市民と一体となって「災害に強いマチ」を目指し防災体制の強化を図っております。また、釧路市民防災センターでは、地震体験室・初期消火体験室・火災（煙）体験室・てんぷら火災消火コーナー・応急救護体験室等の体験をして学ぶ施設や、一人ひとりに合った避難計画地図を作成することが出来る防災マイ・まっぷシステムを導入しており、子どもから大人まで災害等に対する防災知識を楽しみながら学ぶことができます。

釧路市における将来の人口動態を見据えた、より効率的な消防体制をとるために、平成25年4月に中央消防署東分署と武佐支署を移転統合し東分署の新庁舎を整備、平成26年4月には中央消防署愛国支署と新橋支署を移転統合し、分団施設を併設した愛国支署の新庁舎を整備するなど、消防署所の適正配置・配置人員・部隊運用等を見直し、地域住民の安全と安心の確保に向けて今まで以上の消防体制の充実を図っています。

主 要 施 策

1 災害対策の推進

(1) 地域防災力の向上

地震・津波等の災害に対する啓発・教育の推進を図るため、防災ワンデーや消防・防災フェア等のイベントの実施、出前講座の内容の充実、市民防災センターを活用した災害等の体験学習や、「防災マイ・まっぷシステム」を活用し家庭・地域・事業所等で自らの災害避難計画・防災マップを策定できる「防災マイ・まっプランナー」の養成を図り、市民一帯となって防災意識や防災力の向上に努める。

自主防災組織や関係機関等と連携し、防火防災の普及啓発活動の展開を図る。

2 消防体制の充実強化

(1) 施設の拡充

消防組織体制、救急体制の充実強化を図るとともに、消防署・消防分団の統合等により地域防災力の向上を図り、機動性の向上及び適正な消防力の維持に努める。

(2) 装備の拡充

防火衣、水難救助用資機材等の更新等により、装備の機能向上を図り、消防活動の対応力強化及び安全性の向上を図る。

(3) 消防体制の拡充

消防通信機器整備の推進及び緊急消防指令施設の維持管理により、より迅速な消防活動開始に努める。

大規模災害時における緊急消防援助隊の指揮・連携能力の向上を図ることを目的に開催される、緊急消防援助隊合同訓練（北海道・東北ブロック）に消防車両と職員を派遣する。

消防職・団員の知識及び技術向上のため、訓練研修及び訓練施設の整備に努める。

(4) 消防水利の整備

水利未整備地域に消火栓を新設し、消防水利の拡充を図る。

震災時の同時多発火災等に備え防火水槽の新設に努めるとともに、古い防火水槽の埋め戻し等を行い安全性の向上を図る。

3 救急体制の充実強化

(1) 装備の拡充

高規格救急車の更新により、救急装備の高度化を図る。

救急資機材の更新により、救急活動の対応力強化及び安全性の向上を図る。

(2) 救急体制の拡充

救急業務の高度化に対応する救急救命士の病院実習及び救急有資格者を養成し、救命効果の向上を図る。

救急救命士の気管挿管及び薬剤投与の資格取得に努め、高度な救命行為の維持を図る。

消防隊にAED（自動体外式除細動器）を配置し、救急隊との連携（PA連携）体制を充実させ、救命効果の向上に努める。